

## 第2回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 ( 概要 )

先般開催した、令和4年度 第2回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

### 1. 日時

令和4年9月 21 日(水) 13 時 30 分～15 時 30 分

### 2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

### 3. 主な意見等

- 民有林では秋造林に向けた地拵えや間伐を中心に一部主伐を進めており、事業の遅れはない。全体的に伐採業者が不足している。運材は順調で、山土場の原木在庫は多くない。低質材の取扱いが減り、製材や合板向けの取扱いが増えた。単価は高値の推移となっているが、今後の合板の動向により調整となる局面を迎える可能性があるのではないかと。森林組合の製材工場およびチップ工場の原木在庫は減少傾向。製品については、梱包パレットが順調な一方、道外向けのカラマツ及びトドマツラミナは発注量が落ちてきていて、単価も弱含み。
- 道内の一般材の原木価格は地域差があり、地域の需給バランスで、価格は若干下がってきている。製品関係はホワイトウッドの在庫状況によるところが大きく、今後安いコストのものも入ってくるということもあり、トドマツの製品価格も合わせて下落する可能性がある。プレカット工場は前倒して稼働しており、その先の受注量によっては稼働率が下がると心配している。原木価格も製品価格についても多少下がるだろうが、ウッドショック以前の価格までは下がらないと考えている。
- 素材生産業者へのアンケートで、原木価格については現在8割強の業者が上がったが、年末には2, 3割の業者が下がる、逆に上がると回答している業者もあり、先は見通せない。今夏の天候の影響は2割の業者にあったが、被害は1,000 m<sup>3</sup>程度で収まっている。次年度の素材生産量の拡大については、6割程度の業者が人員不足、機械、運搬賃等で厳しいと回答。素材生産業としては価格がある程度維持され、企業の基盤ができてくれば、いずれ労働力が確保できると考えている。
- 道内の梱包メーカーの在庫は0.5～1.5ヶ月とまだ少なく、特にカラマツと小径木関係が不足している。トドマツの一般材については、十分に確保ができているが、輸入製材の価格が下がり始めており、価格調整が必要な状況。一方道内の合板メーカーの在庫はほぼ適正水準。本州の合板メーカーは在庫がいっぱいで、一部で特にトドマツで入荷調整が始まっている。カラマツは少し不足気味だが、代替となる米マツの価格がドルベースで下がってきており、為替で高値を維持している状況のため、為替の動向次第で価格に影響する。輸入製材品は倉庫に入りきれないくらい溢れているため、今後価格は下がり傾向。カラマツのラミナは本州の製材メーカーの仕入れで高騰しているが、現在10%の値下げの提示があり、先安感が出ている。本州の集成材工場の輸入材の在庫

が多く、大手で 5 割以上の減産を強いられている。プレカット工場は、戸建てが減っているが、非住宅関係が木材を使用し始めたので、なんとか持っている。前年比 8 割の工場もあり、10 月以降は先が見えない。

- 道内製紙工場の生産は計画通りからやや増産傾向だが、古紙がかなり不足しており、減産せざるをえない可能性がある。輸入チップの価格は道産材より低い時もあったが、現在は 1.5 倍近くになっている。パルプ材、バイオマス燃料材ともに在庫が確保できない状況で、価格についても全道的に値上がりしている。このような状況のため、チップ原木について、10 月より値上げを実施。原材料の調達面で、製紙原料の流通が少なく苦労しているため、今後も国有林の原木に期待している。
- 製材工場の原木在庫は生産量に対して入荷量が少ないため、半月分とかなり少ない。国有林、道有林の生産量を増やしていくとのことだが、伐採業者が増えないことには、最終的な量は変わらないのではないか。住宅建設が減少しているというが、大手のハウスメーカー等は国産材へのシフトをかなり進めており、現に製材工場の生産量は変わっておらず、今後生産量を増やしていかなければならない状況。国産材、道産材に対する需要は今後も増加が予想され、木材の供給量が増えれば、さらに需要が増えていく可能性がある。そのためには国有林、民有林も含めて供給量を増やす体制を早いうちから検討する必要がある。
- 従来カラマツの製材工場では納期が 1 ヶ月以上かかる時期が長く、発注元が先行して発注していたため、在庫を多くもつユーザーが多く、8 月に入り納期が短くなったものの、在庫が多いため、発注元が発注量の調整をしてきているため、販売量が落ちてきている。梱包材の輸出は中国のロックダウンの影響で全体的に低調。パレットも物価の高騰により縮小傾向。原料については、4 月以降使用量が入荷量を上回っており、在庫が 1 ヶ月程度。樹種については、トドマツの使用のウェイトが少しずつ上がってきており、今後カラマツの補完的な意味合いを含めてトドマツを使用していくことになる。原料価格はカラマツは高値横ばい、トドマツは価格が落ち着いてきている。しかし、トドマツは 3.65m 中心のため、歩留まりに影響している。  
十勝地区、帯広地区のカラマツ工場で在庫を持っているところがほぼ無い。依然製材工場は購買意欲があり、製材原木の供給調整は必要ない。
- 現在林業は環境問題等で注目されているので、魅力のある事業とアピールし、将来性のある人材を集めている。合板と同等品となるパーティクルボードは、解体現場の減少等により、原料在庫が 2 週間程度のため、対応策として本州から建廃チップを船で運ぶ事も行っている。また、解体材が更に減少する冬場に向け、河川の支障木や街路樹の剪定等も含め原木を集めて貯木している。合板代換えとしてパーティクルボードは本州からオファーが続いており、原料と人が確保できれば作れば売れる状況となっている。今年は原料コストの上昇に伴い、製品も値上げで対応でき、事業収支は悪くなっていないが、来年度はボード類がだぶついて価格を下げなければならない状況となるのではないかと。木質系廃棄物や樹種に関係なく、枝、幹、根まで全て当社の各事業で使いこなせるが、ここ数年、原料集めが最重要課題となっている。